

地質技術伝承講演会

地質技師長が語る地質工学余話

申込方法 ジオスクーリングネットによる登録または学会・協会へのFAX、
下記担当幹事へのe-mailにて受付ます。ぜひご参加下さい。
ジオスクーリングネット <https://www.geo-schooling.jp/>
日本地質学会関東支部 FAX 03-5823-1156
関東地質調査業協会 FAX 03-3256-0858
担当幹事 緒方 信一 ogata@ckcnet.co.jp

主催 一般社団法人日本地質学会 関東支部

主催 社団法人全国地質調査業協会連合会 関東地質調査業協会

今回は地形情報・斜面変動と地質をテーマに、講演して頂きます。

記

平成24年4月8日（日）14:00～16:00

（16:00～16:45地質学会関東支部
総会を引き続き実施します）

場所 北とぴあ7階第1研修室（東京都北区王子 1-11-1）

参加費 無料（会員、一般共）

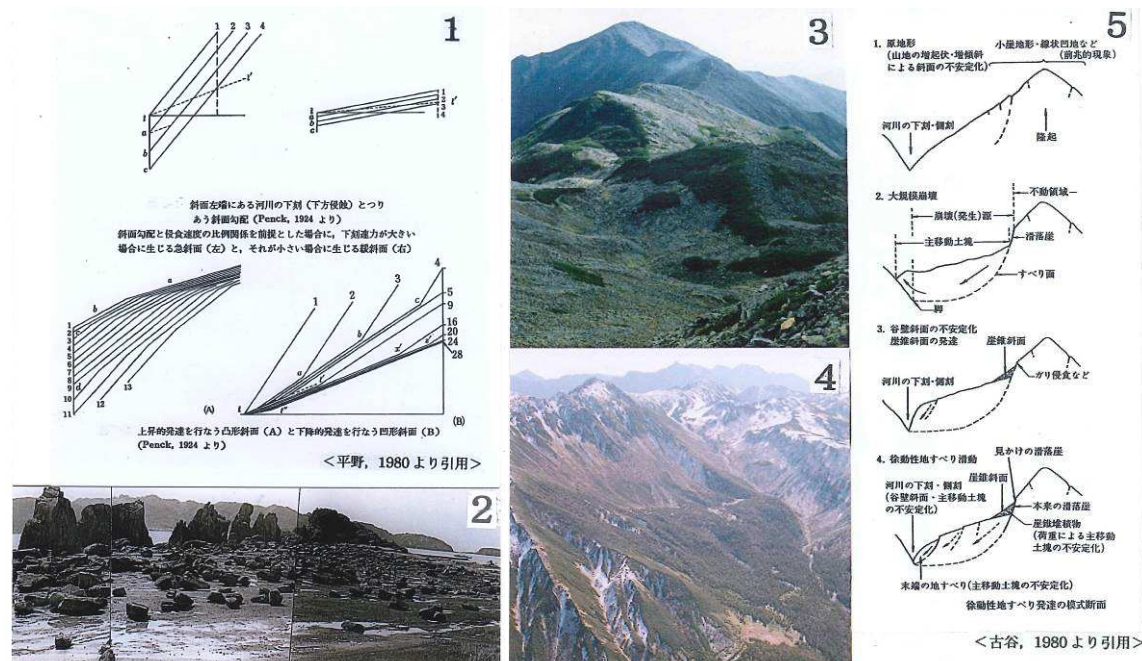
講師 古谷 尊彦 氏（千葉大学名誉教授、株式会社日さく顧問）

地形情報から見た地質の理解

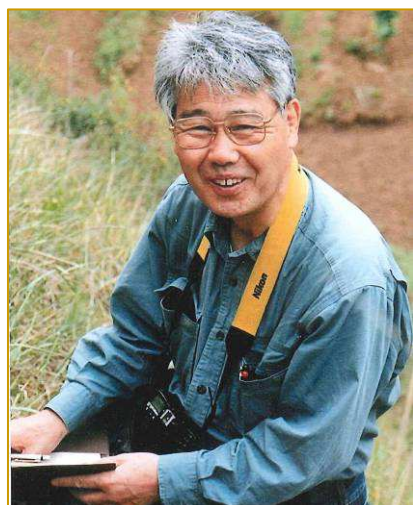
—斜面変動現象との関連で—

講演要旨

地質調査は現地調査が欠かせない。しかし、対象地域の地質が野外で観察され確認される状況は、いわば極限られた点としての露頭に過ぎない。このため対象とした地域の地質は推測の域に止まっている場合が多い。近年、航空写真の普及、航空レーザー計測による高解像度の地形データの取得が可能になり、地形の判読も向上した。しかし地質調査・自然災害調査にこの地形情報がまだ十分に生かされているとは思えない点が多い。演者は地形に関する見方・考え方を紹介し、得られた地形情報を地質調査の補助手段として有効に使いこなし、精度の良い地質調査を行うのにどの様に地形現象を見たらよいか示唆する。



図・写真は地形の見方・考え方の一例を示した。1は地形の見方を示した示す学説の一つ、Penck(1924)の動的平衡説により説明された斜面発達の基本様式である。2は紀伊半島の景勝地橋杭岩の景観で、岩石制約（説）の事例。3は南アルプスの山稜線で観察される多重山稜の事例で、大規模崩壊（地すべり）の前兆的地形現象、4は北アルプス山中で観察された大規模崩壊地形。5は前兆的地形現象から地すべり地形に発達する一つの斜面発達のモデル。6は台湾の集々地震による九分二山の地すべり地形、7はその下部に出現している表層地質で、この表面形状から既に次の崩壊の準備が始まっていることが読み取れる。8・9は房総半島南端近くの道路開設に伴って出現した露頭である。8は大規模な層間異常（ここでは海底地すべり堆積物：化石地すべり）を読み取ること出来るが、9については困難で、通常は断層と判断されてしまう。大規模な地すべり・崩壊の多いわが国の山地では、地表で観察されるこの種の露頭については地表変動現象を疑ってみる必要がある。これらの地形・地質現象を系統的に解説する。



古谷 尊彦（ふるやたかひこ）氏

千葉大学名誉教授、(株)日さく 顧問
千葉大学文理学部地学科卒業
東北大学理学研究科地学専攻修士課程修了
理学博士（東北大学）、技術士（応用理学）
京都大学防災研究所助手
千葉大学大学院自然科学研究科教授
「地すべり・崩壊・土石流」鹿島出版会 共著
「ランドスライド」古今書院
砂防学講座3「斜面の土砂移動現象」山海堂 分担執筆
「地球環境の変容」朝倉書店 分担執筆
地域の科学 古今書院 分担執筆

